

賛否などの態度決定に至った理由・討論

令和5年3月定例会	
議案番号 議案名	第93号 松戸市介護保険事務等委託業務事業者選考委員会条例の制定について
議員名・会派名等	山口正子 日本共産党
賛否態度	反対
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>私たち日本共産党は、本会議および委員会での討論という議員の権能を最大限に活かすことこそ責任であると考えます。</p> <p>非公式のこの場に、議会で発言してもいない議員が意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるとの考えから、以下、本会議・委員会など公の場で討論した内容（抜粋）を掲載いたします。</p> <p>日本共産党の山口正子です。先ほど健康福祉常任委員長から報告されました、議案第93号 松戸市介護保険事務棟委託業者事業者選考委員会条例の制定について、会派を代表して反対の立場から討論いたします。</p> <p>この議案は、介護保険課で行なう業務が増加し、介護認定申請件数がR2年度の15000件からR8年度34000件になるとの試算が示され、処理件数の増加に伴い介護保険業務の事務負担も増加する。現在正規職員以外に会計年度職員、委託先職員を含め100名が在籍しているが、コミュニケーションも取りにくく、市民への通知発送後には日中の電話対応の件数は膨大となる。職員が集中して事務作業に取り組むことが難しい。</p> <p>現在介護認定審査に関する事務のみを委託しているが、R8年度にむけて、定型業務である資格保険料事務、給付事務、窓口の電話対応について可能な限り委託を進めていく。という内容です。</p> <p>増大する業務を行なうためには増員が必要となり、職員を増やすと人件費がかかるので、人件費にけるコストをいかに抑えるかということのために、業務の委託化が進められてきました。委託先の事業者は専門性や業務のノウハウを持っている大手事業者が参入しやすくなり、地元業者が入りにくなる傾向があります。委託先で働く人は最低賃金前後で雇われる可能性が高くなり、官製ワーキングプアが増やすこととなります。行政が外部に委託することで、結果責任を曖昧にして責任を取らない、問題があるかもしれないが直接市の職員は把握していない、ということは現在でもあります。また、委託化で自治体職員の専門性や持っていたノウハウが徐々に失われていくのではないかと懸念されます。現在でも地域包括支援センターなど人手が足りない状況もあります。必要な業務は直接職員が対応できるように、委託ではなく体制を整え、合わせて労働環境を整える必要があるということを指摘いたします。</p> <p>以上述べまして、この議案に対する反対討論といたします。</p>

	2023年3月23日 本会議 討論 日本共産党の山口正子です。
--	------------------------------------